

## 稲垣滋子教授 略年譜

- 1935年 10月東京都青梅市に生まれる。
- 1951年 都立武蔵高校に入学
- 1954年 東京学芸大学教育学部中等教育課程国語科に入学
- 1959年 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程に入学
- 1961年 同大学院修了。修士論文は「多摩方言の音韻・アクセント」  
同大学院人文科学研究科博士課程に入学
- 1964年 同大学院を単位取得退学  
国際基督教大学教養学部語学科助手
- 1965年 稲垣寛と結婚（旧姓小林）
- 1966年 長女出産
- 1968年 長男出産
- 1979年 日本基督教団吉祥寺教会にて受洗
- 1981年 国際基督教大学専任講師
- 1984年 同大学助教授
- 1987年 特別研究期間中、米ブラウン大学客員助教授として日本語教育
- 1988年 同大学準教授
- 1991年 国際基督教大学日本語教育研究センター発足と同時に同センター長（1993年まで）  
同大学教授
- 1993年 特別研究期間中、国際交流基金派遣長期日本語教育専門家として、ロシア・モスクワ大学アジアアフリカ諸国大学にて日本語教育（1994年まで）
- 1999年 国際基督教大学日本語教育研究センター・センター長（2001年まで）
- 2001年 国際基督教大学を定年退職
- 2001年 国際基督教大学客員教授

### 主要な研究業績リスト

#### 著書

1. 「利島方言の語彙概観」平山輝男編『伊豆諸島方言の研究』明治書院、1965
2. 「言語地理学的方法によるアクセント研究」平山輝男博士還暦記念会編『方言研究の問題点』明治書院、1970
3. 「東京語におけるアクセントのゆれ」（共著）F. C. パン編『ことばの諸相』文化評論出版、1979
4. 「アクセントと方言」金田一京助編『新版例解学習国語辞典』小学館、1975
5. 『よくわかる常用漢字』（共著）凡人社、1983

6. 「台東区」「西多摩郡檜原村」東京都教育委員会編『東京都のことば』1984
7. 「アクセントのゆれに関わる要素について」平山輝男博士古稀記念会編『現代方言学の課題』第2巻、明治書院、1984
8. 「アクセント」「東京都台東区」「東京都檜原村」東京都教育委員会編『東京都言語地図』1986
9. 『日本語の書きかたハンドブック』くろしお出版、1986
10. 『よくわかる常用漢字改訂英語版』（共著）、凡人社、1987
11. 「符号の使い方」『講座日本語と日本語教育』第8巻武部良明編『日本語の文字・表記』（上）、明治書院、1989
12. 「アクセント型の支配力—東京都2地点の比較から—」大島一郎教授退官記念論集刊行会編『日本語論考』桜楓社、1991
13. 「シラバス・デザイン文字」「同語彙」他、日本語教育学会編『日本語教育機関におけるコース・デザイン』凡人社、1991
14. 「日本語表記に対する態度と文章理解力—ロシア語圏での調査から—」ICU日本語教育センター・日本語教育プログラム編『日本語教育の課題 ICU 日本語教育四十周年記念論集』東京堂出版、1995
15. 「学習者のニーズ」「運用能力の育成文字と表記」「語彙の導入と広げ方」「書く力」日本語教育学会編『タスク日本語教授法』凡人社、1995
16. 「ゴンザの記述にみられる18世紀前半の薩摩方言アクセント—2音節名詞を中心に—」平山輝男博士米寿記念会編『日本語研究諸領域の視点』明治書院、1996

## 論文

1. 「三多摩方言アクセントの推移」『国語学』46号、1961
2. 「三多摩地方のアクセントを地理的にみる」『都大論究』1号、1961
3. 「西多摩方言における終助詞・間投助詞」『国語研究』14号、1961
4. 「あなたは相変わらずお元気ですか」『日本語教育』17号、1972
5. 「外国人学生の書くことによる表現力—作文の中の誤用例から—」Annual Reports, Vol. 1, ICU, 1976
6. 「帰国学生の書くことによる表現力」Annual Reports, Vol. 2, ICU, 1977
7. 「日本語教育用テストの標準化 I — ICU における予備テストの結果—」（共著）『日本語教育』40号、1980
8. 「日本語教育用テストの標準化 II —国内における結果—」（共著）Annual Reports, Vol. 6, ICU, 1981
9. 「日本語教育における漢字の提示について—Japanese I~VI の教科書分析より—」（共著）Annual Reports, Vol. 8, ICU, 1983

10. 「プレイスメント・テストとクラスの成績」『ICU 夏期日本語講座論集』1、1984
11. 「Modern Japanese for University Students, Part I~IIIの漢字分析」Annual Reports, Vol. 9. ICU, 1984
12. 「誤用分析 1 話しことばと書きことばの使い分け」『日本語学』1985年1月号
13. 「誤用分析 2 呼応関係の緊密性」『日本語学』1985年2月号
14. 「誤用分析 3 読み誤りの一類型」『日本語学』1985年3月号
15. 「誤用分析 4 書き誤りから知る語彙の小体系」『日本語学』1985年4月号
16. 「誤用分析 5 不自然な表現」『日本語学』1985年5月号
17. 「誤用分析 6 人間関係による言葉の使い分け」『日本語学』1985年6月号
18. 「日本語教科書における漢字の使用頻度」『ICU 夏期日本語講座論集』2、1985
19. 「日本語テストにおける選択肢分析—項目特性曲線を利用して—」Annual Reports, Vol. 10, ICU, 1985
20. 「東京方言における話しことばの語彙分類」『語学研究』Vol. 1 No. 1, ICU, 1986
21. 「語の出現率とアクセントの型」『昭和 63 年度日本音声学会全国大会研究発表論集』1988
22. 「東京下町方言におけるアクセント型の出現率」『東京都立大学方言学会会報』130号、1989
23. 「分野別入門講座 評価法」『日本語教師読本シリーズ』12、アルク
24. 「帰国生と日本語教育—コース・デザインを考える—」『異文化間教育』4号、1990
25. 「日本語教科書の外来語」『ICU 日本語教育研究センター紀要』1号、1991
26. 「外来語表記の基準と慣用」『日本語教育』74号、1991
27. 「学生によるコース評価の観点」『ICU 夏期日本語教育研究センター紀要』2号、1992
28. 「移動アクセントの観点から見たゴンザのアクセント—『新スラヴ・日本語辞典』の記述から—」『音声学会会報』212号、日本音声学会、1996
29. 「『しんにほんごのきそ』の「か文」イントネーション—共通語話者の上昇調・非上昇調についての聴覚的印象から—」(共著)『ICU 日本語教育研究センター紀要』7、1999
30. 「18世紀ロシアのキリスト教に接した漂流民の記述の特徴」『アジア文化研究』26号、2000
31. 「漂流民の最初の出会いにおけるコミュニケーション行動」『アジア文化研究』27号、2001